

< ニュースリリース >

2012年3月15日
米国研究製薬工業協会

米国の研究開発志向型製薬産業が 70種類以上のぜんそく治療薬を開発中

米国研究製薬工業協会 (PhRMA: Pharmaceutical Research and Manufacturers of America、本部: 米国、ワシントンDC) は、米国のバイオ医薬品研究企業が開発中のぜんそく治療薬および予防薬は、74種類にのぼると発表しました。これらの治療薬・予防薬は、いずれも開発段階後期(臨床試験中または米食品医薬品局による審査中)にあります。

ぜんそくは、遺伝と環境の両方に起因し、気道の炎症によって空気が肺に流入する経路が狭まる疾患です。米国保険福祉省の疾病管理予防センター (Centers for Disease Control and Prevention) によれば、現在、米国でぜんそくを罹患する成人および小児は 2,400 万人に上り、罹患率は過去十年間で12%上昇しています。米国でぜんそくのため学校や職場に通えない人々は、1日平均4万人に達し、これによる米国経済への直接および間接的な損失は年間 560 億ドルと推定されています。

PhRMA のジョン・J. カステラニ理事長兼CEOは次のように述べています。「ぜんそくは生涯にわたって患者の QOL(クオリティ・オブ・ライフ)に影響を与え、適切な治療が行われない場合、死に至る可能性がある疾患です。今回の PhRMA の報告書¹⁾に特記されている治療薬・予防薬は、ぜんそく患者さんに、より健康で生産的な人生を送ることができるという新たな希望をもたらすものです。春が近づくにつれ、さまざまな環境要因のためにぜんそく患者の健康状態が悪化することがあります。医薬品は、ぜんそく症状、殊に春の季節におこる症状緩和の手助けをすることができます。」

米国のバイオ医薬品産業では、ぜんそくの症状を緩和するあたらしい手法の研究・開発を進めています。これには次のようなものが含まれます。

- モノクローナル抗体によって、エオシン嗜好性白血球(白血球の一種)が肺に蓄積することを防ぐ治療法
- ぜんそくに対して人間の気道が本来持つ抵抗力を活用した新しい吸入療法
- アレルギー性ぜんそくで、炎症を促進するプロスタグランジン(PG)の影響を抑制する医薬品

米国のバイオ医薬品研究企業は、患者さんがより長く、より健康で、かつ生産的な人生を送ることが可能になる医薬品の発見と開発に取り組んでいます。実際、バイオ医薬品産業の従業員一人あたりの研究開発投資額は、製造業全体の投資額の 10 倍以上に達します。こうした研究開発に対する熱心な姿勢によって、世界中の患者さんの命が救われ生活が改善すると同時に、米国に雇用をもたらすなどの経済効果にも貢献しています。

*1 PhRMA レポート3月版。ご希望の方にはお配りいたします(PDF、英語版のみ)

###

- PhRMA Japan

PhRMA Japan は、米国の研究開発志向型製薬企業の日本法人で構成されており、画期的新薬が開発できる環境や患者さん中心の医療制度の確立に向けて活動を続けています。加盟企業は、アボット・ジャパン株式会社、アムジェン・デベロップメント株式会社、MSD 株式会社、日本イーライリリー株式会社、バイオジェン・アイデック・ジャパン株式会社、ファイザー株式会社、 Bristol-Myers Squibb 株式会社、ムンディファーマ株式会社、ヤンセンファーマ株式会社(五十音順)の9社です。2012年、日本オフィス開設25周年を迎えました。

- 米国研究製薬工業協会(PhRMA)

PhRMA は、米国で事業を行なっている、主要な研究開発志向型製薬企業とバイオテクノロジー企業を代表する団体です。加盟企業は新薬の発見・開発を通じて、患者さんがより長く、より健全で活動的に暮らせるよう、先頭に立って新しい治療法を探求しています。加盟企業の新薬研究開発に対する2010年の投資額は約494億ドルで、製薬業界全体の投資額は過去最高の674億ドルに達しました。

- PhRMA ホームページ: <http://www.phrma-jp.org>
- 米国 PhRMA ホームページ: <http://www.phrma.org>

【本件に関するお問い合わせ】
PhRMA 広報事務局(MSL Japan 内)
担当: 大澄 / 池井
Tel: 03-5719-8938 Fax: 03-5719-8919
E-mail: phrma@msljapan.com